



第3回 姫路城の白壁から学ぶ修復技法と白の魅力

令和元年 11 月 9 日に、姫路城のお堀を直近にして天守閣が望める素晴らしい会場で実践色彩講座 2019 第3回講座を開講しました。白色度研究の現状と、姫路城の補修作業の詳細な解説による白壁の保存修復の最新技術を知ることができました。受講者からこの一連のユニークな講座でワクワクもし、今日は白色に対する考察への新鮮な刺激を頂いたとの感想がありました。また今回は (株)塗料報知新聞社様から取材を受けました。その情報は別の機会にお伝えしますが、インタビューを通して色彩についての様々な視点からの情報共有がまだまだ要求されていることを実感しました。

辻埜孝之 (辻埜プランニングオフィス)・森本一成 (京都工芸繊維大学名誉教授)

①片山一郎氏 (近畿大学 准教授) 白色度 ―白はカラフル―



白色度式の標準化の経緯の紹介があり、現在の CIE 標準化白色度式は実験結果に合わないことが強調された。一方、異なる照明光下での近似白色物体の知覚白色度評価インデックスの算出式が提案された。会場からは 2019 年 CIE セッションで提案された新白色度式に関する質問や、白色に対する日本人の好みなど幅広い分野からの質問があり、白色度に関する議論が深まった。

②野崎信雄氏 (元 鹿島建設株式会社 姫路城大天守保存修理工事事務所 総合所長) 最新技術と古来技術とのコラボレーション

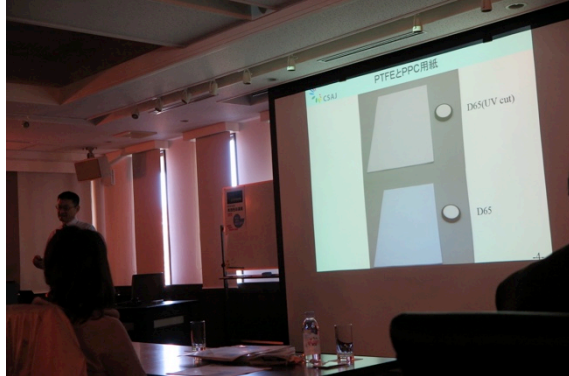


昼食時に世界遺産姫路城の昭和の大修理のビデオを放映した後、平成の大修理との違いを詳しく説明された。美しい大天守の保存修復に大変苦勞されたことが理解できた。漆喰に関しては、古文書を参考に 1 年半かけて試験塗りを行い、漆喰の状態変化を確認したことや、傷んでいる個所ごとに修理方法を変えたことなどが紹介された。受講者からは、漆喰の材料を平成時に変えたのか、漆喰の経年変化における測色データはあるのか、以前より屋根が白すぎて見えるのは何故かなど多くの質問があった。

■2019 12/14 第4回「自然色を学ぶ ～育てる・味わう・測る～」[スポットでの受講を受け付け中。](#)

■2020 2/22 第5回「より戦略的なカラーマーケティング」マーケティングのヒントを掴む。

<http://www.color-science.jp/branch/kansai/img/20190906.pdf>



関西支部
実践色彩講座

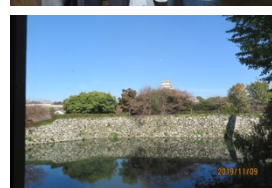
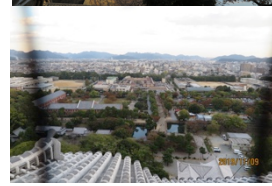


関西支部
実践色彩講座



関西支部
実践色彩講座
2019

考える
わかる
使える "色彩学"



野崎氏の案内で姫路城を見学しました。多くの制約の下で、可能な限り最善に近い手法を開発して構造物や漆喰の修復が行われた訳ですが、その具体的な個所を現場で説明頂き修理技術の素晴らしさをより正確に理解することができました。次の修理は 40 年後とのことです。

